

## 第13回 総会・学術集会のご案内

メインテーマ：精神科看護の経験

日時：2003年5月31日(土)・6月1日(日)

場所：都市センターホテル(東京都千代田区)

### 第13回学術集会大会長 武井 麻子

来年、5月31日(土)と6月1日(日)の両日、千代田区平河町の都市センターホテルにて日本精神保健看護学会の第13回総会・学術集会を開催いたします。

テーマは「精神科看護の経験」としました。精神科看護に従事する者自身の体験について語り合い、その意味について考えてみようという趣旨です。看護は己を知り、対象を知るといってフレクティブなプロセスのなかでなされていくものです。個々の看護者はそれぞれに、恐ろしいこと、楽しいこと、恥ずかしいこと、悲しいこと、うれしいこと、おかしなこと、腹が立つことなど、さまざまな経験をもっていて、そこから多くを学んでいるのですが、なかなかそれをお互いに語り合ったり、確かめ合ったりすることがないというのが実情ではないでしょうか。とくに看護者個人のライフ・ヒストリーに埋め込まれた経験は、その人固有の体験としてしまいこまれ、言葉にして語られる機会がありません。そのために長い精神科看護の歴史のなかに蓄積されているはずの、豊かな知恵が共有され、伝達されてい

かないのです。そうした埋もれた宝を掘り起こしたいと思っています。

最近、語りやナラティブといったことに注目が集まっています。既成の専門知識や理論から現実を見るのではなく、個々人の体験世界から改めて現実の意味を見出していこうというものです。このたびの学会では、長年、フィールドワークを通して父子家庭の問題や高齢者、障害者などの介護の問題にアプローチしてこられた春日キスヨ先生に特別講演をお願いしたほか、宮本真己先生に「感性を磨く技法」についての教育講演をお願いしました。また、シンポジウムでは「越境する看護」と題して、年代や領域を越えて精神科看護に関わってこられた経験をもつシンポジストに、それぞれの物語をお話いただく予定です。

その名のとおり、東京都心の真中にあるホテルでの開催となり、少々、会費を高く設定せざるを得なくなりましたが、大勢の皆様方にお集まりいただき、大いに語り合えることを期待しております。

## 第11回 教育活動委員会主催のワークショップに参加して

聖路加看護大学 下枝 恵子

平成14年8月30日に、聖路加看護大学で教育活動委員会主催のワークショップが開催された。テーマは「フィンランドおよび日本における地域精神保健従事者の人権擁護のあり方と看護者の役割」であり、講師には第9回学術集会で基調講演をされたフィンランドのタンペレ大学地域精神看護学のマリッタ・ヴェリメッキ氏と東京精神医療人権センターの小林信子氏の両者が迎えられた。

前半のマリッタ氏の講演では、フィンランドにおける①精神保健問題、②精神障害者の権利、③精神障害者を守るための方法、④精神障害者の人権保障のために今後必要なこと、の4つに焦点をあて話された。フィンランドは、ヨーロッパの中で精神科入院患者の人権の法律を作った最初の国である。1990年に新しい精神保健法（精神疾患法から精神保健法に法律名が変更）が確立し、さらに今回の講演2ヶ月前であった2002年6月に、患者の権利、患者の自己決定の権利、拘束に関する様々な条項を改める法律改正が行われていた。患者の地位と権利に関する法律には、自己決定への権利、知らされる権利と患者代理人の権威、治療にアクセスする権利、など10の項目にわたる入院患者の権利がある。例えば、患者さんが身体疾患の治療を拒否したときに、どうしたら治療を施すことができるか、ということが法律に詳細に述べられている。特に印象に残り驚いた内容は、フィンランドでは患者のオンブズマンが病院、ヘルスケアの場所に用意されなければならないと法律に定められており、そのオンブズマンの8割が看護職であるとい

うことだった。後半に小林信子氏も東京精神医療人権センターの活動を通して日本の現状について話されたが、日本における患者の人権擁護の体制がいかに乏しいかということに改めて感じ、看護職がもっと患者の人権に取り組む必要性があることを強く実感した。また、日本においても施設内に患者の人権を守る団体や部署があることが望ましいことだと感じた。最後に、マリッタ氏は、精神科看護に従事しているものへの課題として①高度な教育を受け患者の治療に関して動機付けをしっかり持つこと、②精神科患者に対して、前向きな態度を持ちつづけること、③患者の権利を守り推進していくために、自分達で新しいシステムを生み出していくような革新的な者であること、④根拠に基づいた実践を展開する、研究志向の者であること、⑤治療の有効性をきちんと評価していく姿勢を持ちつづけることを語った。

会場には、臨床看護師、保健師、心理職、ソーシャルワーカー、看護教員、当事者など、様々な立場の方が合計60名ほど参加していた。参加者達からは、様々な立場で日頃感じている思いや疑問、意見など活発な発言が見られ、精神障害者の権利と人権擁護についての関心の高さを示していたように思われた。このワークショップに参加し、フィンランドにおける精神障害者の権利と人権擁護のシステムの現状を踏まえながら、日本の現状を振り返ることができ、我々看護職の今後の課題を考えるよい機会となった。

教育活動委員会主催

第12回 ワークショップのご案内

地域精神医療との連携 ―新たな精神保健看護を目指して―

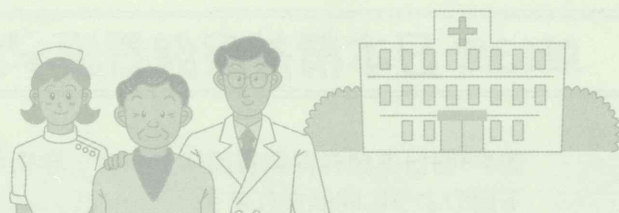
理事 瀧川 薫

今年は冬の到来が例年より速く、寒さの厳しい時候となりました。皆さま如何お過ごしでしょうか。

このたび、日本精神保健看護学会教育活動委員会では、標記のようなテーマで地方ワークショップを企画いたしました。

是非、ご参加下さいますよう、宜しくお願いいたします。

- 日 時 ● 平成15年1月11日(土)  
10:00~16:00 (9:30より受付開始)
- 場 所 ● 滋賀医科大学医学部看護学科  
(滋賀県大津市瀬田月輪町)
- 講 師 ● 川口 優子 先生(神戸大学医学部保健学科)  
平澤 久一 先生(日本赤十字広島看護大学看護学部)  
瀧川 薫 (滋賀医科大学医学部看護学科)



- **参加費** ● 一般参加：学会員 2,000円  
 非学会員 2,500円  
 (共に資料代を含む)  
 学生参加：1,000円(資料代を含む)

● **お申し込み方法** ●

FAX、官製ハガキ、電子メールのいずれかで、「ワークショップへの参加を希望」と明記の上、参加者の①住所、②氏名(フリガナ)、③所属、④連絡先の電話・FAX・電子メールアドレス(お持ちの方のみ)、⑤一般(学会員・非学会員)あるいは学生の区別を記載して、12月27日までに下記までお申し込み下さい。

<お問い合わせ・お申し込み>

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町  
 滋賀医科大学医学部看護学科内  
 日本精神保健看護学会地方ワークショップ事務局  
 瀧川 薫あて

Tel : 077(548)2084  
 Fax : 077(548)2466  
 e-mail : takigawa@belle.shiga-med.ac.jp

## 最近の話題

### —新しい抗精神病薬の豆知識—

昨今、精神科においても薬の研究・開発がめざましく、抗精神病薬や抗うつ薬などで次々と新薬が発売されています。ただ長年馴染んできた薬と違って「新薬」故に詳しい情報が乏しかったり、副作用だけが先行して誇大に伝わったりしがちですが、現実に臨床では患者さんからの要望も多く、薬物療法の切り替えが始まっています。この夏に開かれたWPA横浜大会でも、新薬への切り替えについて全家連主催の公開講座が開かれ、医療者・当事者ともに多くの参加があり、高い関心を寄せられている現状が伺えました。今回は、新しい抗精神病薬の紹介と切り替えの際に必要な看護上のポイントを紹介いたします。( )内は商品名です。

#### 【新薬の紹介】

**リスベリドン (リスパダール)** : ハロペリドールより錐体外路症状が少なく、陽性症状に対して効果が出るのが早いと言われています。しかし個人差が大きく、少量でも錐体外路症状がでることもあります。他の副作用としては体重増加と月経停止があります。(1日3-6mg、最大12mgまで。)

**オランザピン (ジプレキサ)** : 1日1回の服用でも効果があり、副作用の鎮静作用があるため、就前1回の処方になることがあります。その他には、体重増加、血糖値の上昇といった副作用があり、糖尿病疾患をもつ患者には禁忌となっています。(1日5-20mgまで。)

**クエチアピン (セロクエル)** : 錐体外路症状が少なく、無月経、乳汁分泌も少ないことで知られています。1日2回の服用でも効果がみられます。倦怠感、起立性低血圧、食欲増加、体重増加といった副作用があります。(1日300-750mgまで。)

#### 【切り替え時の看護上のポイント】

- ・切り替え時には、「それまでの薬の離脱症状(下痢、筋肉のこわばり、振戦など)」と「新しい薬の初期の副作用(ふらつき、不眠、体重増加など)」が出ます。特に錐体外路症状はどちらにも現れますが、切り替え初期の数週間に現れる場合は離脱症状、それ以降の場合は初期の副作用と考えられます。
- ・切り替え時には処方が複雑になるため、誤薬が発生しやすくなります。切り替えの手順を医師・当事者と一緒に確認したり、薬剤師を交えての複数での処方内容の確認と薬剤の確認が必要となります。
- ・一時的に不安や陽性症状の増加があります。そのため、再燃に至らないよう十分な経過観察と症状悪化時の速やかな医師との連携が必要です。

文責：江波戸和子

## 第13回 日本精神保健看護学会総会・学術集会のお知らせ

第13回日本精神保健看護学会総会・学術集会は、  
下記のように開催されます。

- と き：平成15年5月31日(土)、6月1日(日)  
と ころ：都市センターホテル（東京都千代田区平河町2-4-1）  
参 加 費：会員8,000円、非会員9,000円、学生3,000円  
メインテーマ：『精神科看護の経験』  
主なプログラム：大会長講演「精神科看護の経験」 武井 麻子（日本赤十字看護大学）  
基調講演「ケアの現在－仕事、それとも愛情？」  
春日キスヨ（安田女子大学）  
教育講演「感性を磨く技法」 宮本 真巳（東京医科歯科大学）  
ワークショップ、演題発表  
参加申込み：同封の郵便振替用紙に、必要事項をご記入の上お申し込み下さい。  
事前申込み締切り：平成15年5月15日(休)

学術集会に関するお問い合わせ先：

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3  
日本赤十字看護大学精神保健看護学研究室内  
第13回日本精神保健看護学会学術集会・企画委員会  
担当：小宮、榊、加藤 Fax：03(3409)1069

お問い合わせはFaxで  
お願いいたします

### 《一般演題募集について》

本学会では、会員相互の意見・情報の交換、交流を重視した参加型の学会として、十分なディスカッションの場にしたいと考えております。萌芽的研究、実践報告、研究として発展段階にある演題も大いに歓迎します。

単なる成果の発表だけではなく、会員の皆様が日々行っている実践や研究を検討する場として、どうぞふるってお申し込みください。

1. 発表ご希望の方は本号（第36号）ニュースレターに同封のハガキにて、演題名をお申し込みください。平成15年2月3日(月)必着でお願いします。
2. 演題を登録された方には、のちほど抄録用の手引きをお送りいたします。抄録原稿の締切りは平成15年3月3日(月)必着です。

## 第5期 役員選出選挙について

平成15年6月30日をもって当学会の現役員の任期が終了いたします。このため次期役員を選出選挙が行われます。

選挙は日本精神保健看護学会会則および役員選出選挙規約に基づき、下記のような手順で理事10名、監事2名の選出を行います。理事および監事候補者12名は、あらかじめ役員推薦委員により推薦されます。2月中旬には候補者リストと投票用紙を郵送いたしますので、信任・不信任の印をつけて、ご返送ください。

選挙に関するお問い合わせは、下記の推薦委員会まで文書でお願いいたします。

〒204-8575  
清瀬市梅園1-2-1 国立看護大学校  
日本精神保健看護学会・推薦委員会 瀬野 佳代

### 選挙方法

役員候補者の信任、不信任投票  
投票方法は郵送による。

### 選挙日程

投票用紙発送：平成15年1月中旬  
投票締切：平成15年2月末日  
開票：平成15年3月中旬  
開票結果報告：開票結果は総会で承認された後、総会およびニュースレターで報告されます。

日本精神保健看護学会推薦委員会担当  
瀬野 佳代（国立看護大学校）  
辻脇 邦彦（東京女子医科大学病院）  
水野恵理子（聖路加看護大学）

### 学会へのお問い合わせについて

学会への入会手続き、学会誌のバックナンバーのお求め等に関するお問い合わせ、住所や所属の変更につきましても直接、下記までご連絡をお願いいたします。

〒113-8632 東京都文京区駒込5-16-9  
(財)日本学会事務センター 日本精神保健看護学会事務所  
Tel:03(5814)5810 Fax:03(5814)5825

The Japan Academy of  
Psychiatric and  
Mental Health Nursing  
*News  
letter*

### 編集後記

本格的な寒さが到来し、街には年末・年始の準備を感じさせる雰囲気漂っています。また新年が訪れるわけですが、来年はどんな一年になりますでしょうか。少し早いですが、皆さんよいお年をお迎えください。(H)

### 編集委員

田中美恵子 濱田 由紀  
江波戸和子 若狭 紅子